

放課後等デイサービスにおける運動療法・療育支援

- 発達障がい児を対象とした心理学的支援法の実践 -

【事業所1】（Athlonデーサービス カケル）

- 学習目標 -

特性に応じた関わり方を理解する
相手に合わせて支援内容を調節する力をつける

- ・背景：知識では知っているが、実際に向き合うとどうなるのか
- ・課題：特性に合わせて、その場で判断して関わり方を変える難しさ

うまくいったこと

名前と特性をすぐに覚えた
→ 積極的に話しかけられる

したい遊びを尊重
→ 安心してもらえる

むずかしかったこと

メリハリをつけさせる
→ 集中が続かない

初対面の声掛け
→ 何が嫌かを把握できてない

- 活動内容 -

- ・一緒に宿題
- ・クイズ、パズル、トランプ
- ・療育（徳育、知育、体育）

- 振り返り -

- ・“子どもの気持ちの動きに合わせてる姿勢”
- ・うまくいかない＝自分がだめ
- ・その子にとって合わない方法だった

- 今後 -

特性の違いを「覚える」のではなく
「理解して使い分けられる」ようにになりたい

【事業所2】（Athlonデーサービス カケル）

- 学習目標 -

① 子どもを励ます

- ・小さな「できた!」を見つけて褒める
- ・自信につながるサポートをする

② 安心できる環境づくり

- ・優しく声をかける
- ・気持ちを丁寧に聞き取り、受け止める

③ 社会とのつながりを支援

- ・友達とのコミュニケーションを手伝う
- ・ルールや順番を一緒に練習する
- ・社会で必要な「やってみる力」を育てる

④ 個性を理解し、合った関わり方を探す

- ・一人ひとりの違いを尊重する
- ・その子が安心できる方法を選ぶ

- 背景 -

- ・大学生として初めて発達支援の現場に参加
- ・子どもと関わる経験は少ないが、観察力が高く、行動の裏にある気持ちを読み取ろうとする姿勢がある
- ・子どもとの会話で、気持ちを自然に共有できる柔軟なコミュニケーション力を持つ
- ・実習を通して、価値観が「教えること」→「理解して寄り添うこと」へ変化しつつある

- 課題点 -

- ・初回、注意が散漫な子を前にどう関われば良いか分からず戸惑った
- ・問題行動への“楽しい導き方”の引き出しがまだ少ない
- ・助けたい思いが先走り、子どもが自分で試す前に手を出してしまうことがある

- 活動内容 -

事業所1と同じ

- 振り返り -

- ・宿題をサポートした
- ・回を重ねる中で、子ども一人ひとりの個性（頑固さ・勝ち気さなど）を発見した
- ・コーチから関わり方を学び、「意図を理解する」姿勢を実践した
- ・異文化の共有や、感情爆発の場面にも対応し、現場経験を積んだ

- 今後 -

- ・専門が何であっても、人の話を忍耐強く聞く姿勢
- ・人と関わる自信を得られたことは大きな財産

【事業所3】（アスロンカケル アカデミー）

- 学習目標 -

- ・障がいを持っている子への支援の仕方について学ぶ
- ・自己肯定感をあげる褒め方を知る
- ・心を開いて貰えるようにする
- ・手伝いすぎない

- 課題点 -

- ・障がいを持っている子は敏感なので少しのことで不安な気持ちにさせてしまうため、意識をしないといけない
- ・次々とやらせるのではなく一つ一つに褒めてあげないといけない
- ・手伝いすぎるのは成長の妨げになるからいけない

- 活動内容 -

- ・お迎えの車
- ・お菓子タイム
- ・始まる前に子供たちと遊ぶ時間
- ・始まりの会
- ・徳育「目のウォーミングアップなど」
- ・知育
- ・体育
- ・準備運動
- ・帰りの会

- 振り返り -

活動への貢献度は50%くらいだと思う。理由は何をすればいいかわからず見ているだけの時が何回もあったのと少し手伝いすぎた場面があった。逆に貢献できたと思ったのは始まる前に子供たちの面倒を見れたり制作で使うパーツを作るのを手伝ったりできたこと。
またストレッチでうまくできてない子を支援してあげてその子ができるようになったことがあったから貢献も少しはできたのではないと思った。

- 今後 -

- ・活動前は悪いことをしたらまず怒って謝らせるのが筋だと思っていたが、そうではなく気持ちを聞いて本人に寄り添う形だと本人も納得してくれて、気持ちも収まって上手にいく事がわかった。
また怒っている子が他の子供に八つ当たりした際に、その子は落ち着いてと冷静に言っていたのを聞いて大人だなと思って見習いたいと思った。
- ・できないことなどをすぐ手伝わすヒントを与えるだけなどをする事により本人も次から一人でもできるようになるとわかった。
- ・活動を通して全てにおいて最初から事実や正論をぶつけるだけではなくまず相手の気持ちになって考えることが大事だと思った。そうすることにより相手もこっちの意見を理解しようとする体制に入りやすくなるからだ。